

日本労働年鑑 第53集 1983年版
The Labour Year Book of Japan 1983

第二部 労働運動

XII 政治的大衆行動と平和運動

概要

一、第五三回メーデーは、五月一日、代々木公園の中央会場に三〇万人、全国一二二四会場で約四〇〇万人が参加した。

一、原水爆禁止八一年世界大会は、八月三日～四日国際会議、八月四日東京集会、八月九日長崎大会という日程で開かれ、長崎大会には一万二〇〇〇人が参加した。

一、原水爆禁止八一年世界大会にむけて、原水禁、原水協はそれぞれ、被爆三六周年原水禁大会（八月五日～六日、広島、八月七日、長崎）、原水爆禁止運動長崎全国集会（八月七日、長崎）を開催した。

一、被爆者援護法の制定に向けて、一九八一年原水爆禁止、被爆者援護ヒロシマ集会が、八月六日、広島で開かれ、五〇〇〇人が参加した。また、全国戦争犠牲者国家補償要求長崎大会（八月七日、長崎）も開催された。

一、三・一ビキニデーは、二月二七日、前年にひきつづき統一集会として開かれ、二〇〇〇人が参加した。

一、第二回国連軍縮特別総会にむけて、かつてなく反核・平和運動が盛り上がり、国民署名運動推進連絡会議など反核運動団体の結成や反核アピール、決議の発表が相次いだ。このようななかで、平和のための国民集会（八一年十一月二日～三日、東京）、横浜平和集会（八一年十二月八日、横浜）、平和のためのヒロシマ行動（八二年三月二日、広島）、平和のための東京行動（五月二三日、東京）などの集会がもたれた。

一、反戦闘争は、八・一五全国統一行動や三・八下町反戦集会など新たな展開を示す一方で、一〇・二一国際反戦デーがついに分裂集会になるなど複雑な様相を示した。

一、反軍・反基地闘争としては、反基地全国集会（八一年九月一九日～二〇日、三沢）、東富士日米陸上合同演習抗議行動（八一年一〇月一日、八二年二月一五日～一九日、御殿場）、P3C配備阻止集会（八一年一二月一〇日、大和）、米空母入港反対集会（八一年一二月一二日、佐世保）、リムパック反対集会（八二年三月一三日、横須賀）などの集会がもたれた。

一、沖縄復帰一〇周年にあたる八二年には、復帰一〇年平和な島をつくる県民大会（五月一五日、那覇市）、真の「本土並み」を実現する沖縄集会（六月二八日、那覇市）が開かれた。

一、その他の運動としては、金大中氏救出、日韓連帯運動、教科書とマスコミへの権力介入に反対する運動、刑法改悪・保安処分阻止をめざす運動、ロッキード疑獄追及運動などがとりくまれた。

■←前のページ 日本労働年鑑 1983年版(第53集)【目次】次のページ→■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
